

図書館員の四季

NACISIS-IR を利用して

阪和記念会館 亀井 真由美

当図書室では、年々文献複写依頼件数が増加し、相互貸借業務に時間が費やされています。中でも所蔵館調査に時間がかかり、大変な思いをしてきました。しかしこの春に NACISIS-IR を導入し、所蔵館調査に大いに役立っています。

〈NACISIS-IR 利用による利点〉

- ①冊子体の所蔵目録ではタイムラグがあり、新しく刊行された雑誌の調査は困難だった。NACISIS-IRではタイムラグが少なく、新しいものでも所蔵館が確認できる。今までは所蔵館が確認できなければ、民間の企業に依頼していたため、金額的、時間的にも利用しにくかった。
- ②冊子体の所蔵目録は高額なため、最新版が出るたび購入するのは大変であるが、NACISIS-IRでは利用料金が1データベース60円であるため、金額的にも利用しやすい。
- ③これまで困難だった単行書の所蔵館調査が容易になった。
- ④誌名が英文でかかれた和書でも、正式な和文の誌名が確認できるなど、書誌事項調査にも便利である。
- ⑤医学系以外の文献でも所蔵館が確認できる。

以上のように所蔵館調査が大変スムーズになり、NACISIS-IR を利用してとても心強い思いをしています。

“石の上にも三年”

広島市民病院 香川 由美子

昨年4月、人事異動で外科外来受付から図書室勤務を仰せ付かった。前任者は25年間図書室に勤務された大ベテランでした。そのあとをわずかな引き継ぎで突然図書室を背負って立たなければならないことになり、「さてはて、どのように図書室を運営していけばよいのやら…。開店休業になって閑古鳥が鳴いたらどうしよう。」と不安な気持ちでいっぱいだった。そんな私に容赦なく仕事はどんどん舞い込んできた。広島市の行政職として採用され、図書業務とは全く縁のなかった私は、新しい業務を覚えながらこなしていかなければならず、悪戦苦闘の毎日であった。

一番苦労したのは病院医誌の発行であった。医学雑誌を初めてみた私はどのように作業をしていくのか分からず、手探りの状態で、残業、休日出勤する日が続いた。幸い周囲の助けを借り、年内ぎりぎりに完成した雑誌を手にした時は涙の地図が表紙にできてしまった。

何とか一年間が経過し、一通りの業務を経験した。釣瓶落としの秋の日に図書室の窓からは広島城がちらりちらりと見える。2回目の病院医誌の校正、編集を終え発送を完了。ほっとするのも束の間、スライド、ポスター作成などの医局業務が矢のように飛び込んでくる。目まぐるしい毎日である。

利用者の様々な要求に応えられるように頑張りたい。つまずいてころんで擦りむけたところから私は私なりに立ち上がっていきたい。

“石の上にも三年”。今、五合目である。